

令和4年度 1学期始業式 校長式辞

新しい年度が始まります。今日は皆さんに先日本で読んだ「ノミ」の話をします。

小さな虫ですが大きくジャンプするあの「蚤」です。

ノミは2ミリぐらいの大きさですが、1メートルくらいジャンプするのだそうです。そのノミを瓶の中に入れてふたをすると、何度かジャンプして蓋にぶつかり、ジャンプができないとわかると、蓋を外してもジャンプをしなくなってしまうのだそうです。

この話を読んだ時、私は皆さんたちのことを思いました。

皆さんたちの可能性は無限大です。でもいつの間にか「自分はできない」と思っていませんか。蓋が外されているのに、ジャンプできないとあきらめたノミと同じです。

飛べなくなったノミが再び飛べるようになる方法が1つだけあります。同じ瓶に高く飛ぶノミを入れるのです。仲間がジャンプするのを見たら、やがて自分も飛べることに気が付き、瓶を出ていくのだそうです。

大湊高校には素晴らしい才能を持った生徒や自分の可能性を信じて努力を続けている生徒がいることを皆さんは知っていますか。

将来起業することを明確な目標にし、1年生の時から政治経済の勉強を独学で始めた生徒がいます。全国高校生会議の主要メンバーになり、全国の高校生を集めてオンラインで様々な社会問題を話し合っている生徒もいます。数学の模擬試験では県内のトップ進学校でも取れないような点数を取る生徒は数学の先生についてとどろん問題を解いているそうです。先日の課題研究のポスターセッションで私はものすごい絵を描く生徒を見つけました。緻密で独特の素晴らしいデザインでした。努力をすればプロになれると思えました。

大雪の日の朝早く、学校の前を一人で雪かきしている生徒がいました。野球部の彼は本気でプロを目指していて、他人のためになることを実践することを自分に課しているのだそうです。陸上部で昨年の新人戦400メートルで優勝した生徒はコロナで練習ができない環境の中でも自分でトレーニングを組み立て、努力を継続し続けました。

全て、今この中にいる生徒です。

学校は瓶のような存在です。皆さんを外界から守り、ある一定の規律の中で学習をしています。それは必要なことだと思っています。でも蓋であってはいけないのです。ともすれば我々教員は今まで瓶の蓋だったのかもしれませんが。これからは我々の能力をはるかに超えて飛んでいく生徒をもっともっと応援したいと思います。

自分の可能性を信じて高く飛ぼうとしている生徒を応援することが、飛べないと信じている他の生徒の可能性も広げることになるからです。

大湊高校は変わります。総合学科の強みを生かして、もっともっと、一人一人の生徒が自分の強みを生かして成長していける学校になります。令和4年度一緒に頑張りましょう。